

今年は例年以上に寒さも厳しく、インフルエンザも流行していますが、みなさんは大丈夫ですか。3年生は卒業式が目です。3年間の思い出がたくさん詰まった本校に別れを告げ、それぞれの場所へ旅立っていきます。これからの道の途中、どんな場所、どんな人との出会いがあるのか、楽しみです。そしてまた、新しい本、新しい自分との出会いも待っていますよ。

3つのコンクール受賞者 発表!!

第63回青少年読書感想文奈良県コンクール

研究会賞受賞 2年1組 堀 佑奈 さん

「名のないシシャ」 山田 悠介 著
タイトル ～人の温もり～



少年は人の『死までの時間』が分かり、命を与える特別な力を持つ『シシャ』という存在だった。名を持たぬ彼は人間の少女・玖美から“テク”という名前をもらい、少しずつ喜びや悲しみといった感情を知る。しかし、永遠に大人にならないテクと成長していく玖美には、避けられない別れの運命が迫っていた。切なすぎるラストが胸をうつ、命と運命の物語。

堀さんは、「『今』という時間がいかに大切か、また、大切な人がいる普通の暮らしこそが最大の幸せである」ということに気づいたそうです。最後には、「当たり前の毎日、当たり前のようにいつも会って話している先生や友人と出会えた『運命』に感謝しようと思う」としめくくっています。

第35回読書感想画奈良県コンクール 優秀賞受賞

第29回読書感想画中央コンクール 優良賞受賞

1年A組 一柳 遥花 さん

「暗幕のゲルニカ」 原田 マハ 著
タイトル ～アートのカ～



本を読み、その感動を絵画で表現する読書感想画。本校では、美術部を中心に毎年出品しています。今年度は全国大会に出品され、見事に全国で3位の快挙となりました。



図書委員 今月のオススメ



1年F組

羅生門 芥川龍之介 「おのまん」
僕は善悪が揺れ動く主人公の気持ちや、老婆との会話で変化する様子がとても興味深かったです。現代日本では下人のような状況におかされる事は果たにありませんが、ある事がきっかけで気持ちが吹っ飛ばれだろという状況は誰かが経験しているでしょう。そしてそんな経験の中には、キレイごとで済まされないことと存在します。羅生門は人間の生きるための悪というものを描いた作品となっています。様々な状況の中で、その人にとって何が善で何が得なのか、また悪いがものに己見る視点によって変わるのだと僕は思いました。少し長いけど読んで見たらおもしろいのでぜひ、みなさん読んで見てください。

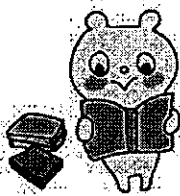


『何者』
著者名：朝井 リョウ
出版社：新潮文庫

2年A組



〈カワリ〉
就職活動と目前に控えた拓人は、
同居人・光太郎の引退ライブに足を運んだ。
光太郎と別れた瑞月も果ると知っていたから。
瑞月の留学仲間・理香とその恋人の隆良も交え、
五人は就活対策として集まるようになるが…。
〈感想〉ラスト30ページ、物語が凄く面白く
読んでいて楽しかった。



1月の図書館利用状況			
1年生	2年生	3年生	合計
56人	39人	186人	281人

3年生は一般試験のまっただ中。毎日図書館に通って、受験勉強に励んでいる受験生もいます。あともうひと踏ん張り、頑張ってくださいね。1,2年生は、もう少しで1年間の総まとめの学年末テストが始まります。有終の美を飾ることができるよう、今から計画立てて対策を練っていきましょう。

